



臨時医療施設を設置へ

【田原】 コロナ対策は初期の対応が大切

です。PCR検査で陽性が出た初期の段階から、医師会会員が担当医として電話やオンライン診療を駆使し、薬剤師会や訪問看護と連携して、自宅療養者への支援を徹底して行います。そのうえで軽症・中等症の治療に対応できる**臨時医療施設があれば、基幹病院の病床ひっ迫を緩和させる**ことにつながります。この運営は限られた医療スタッフを有効に使うため、都が主体となり他市との連携で進めることも必要です。武蔵野市医師会としてできる限り協力をします。

【松下】今日の危機的な状況を打開するためには、新型コロナ特措法を機動的に使って、臨時医療施設を迅速に設置しなければなりません。新病院の建設を待ってなどいられません。多摩府中保健所管内の6市が協力し、臨時医療施設の開設を東京都に求め、まずは1カ所実現できましたが、さらに、武蔵野市医師会の協力の下、武蔵野

市として強力に推進したいと思います。また、武蔵野市には単独の保健所がないために、感染症対策に様々な制約があります。**武蔵野市に保健所を復活**すべく継続して強く要望していきます。

PCR検査体制の拡充

【松下】 昨年の流行当初、PCR検査を受けたいのに受けられないという声が多数寄せられました。そこで、**PCR検査センターを設置し、続いて市内医療機関でもPCR検査が受けられる体制**をつくり、「1日最大500件」の検査が受けられるようになりました。さらに、**医療機関名を公表**し、市民が検査を受けやすい体制を整えました。

【田原】 医師は、通常診療の患者さんにはいつも通りの診療をしなければなりません。PCR検査は感染が疑われる方が来られるので、感染防御対策をした上で検査をしました。民間機関の検査とは違い、医師は、検査の結果をきちんと知らせた上で、病状に応じて治療し、

感染拡大防止につなげます。不安を抱えて検査に来られた方に大変感謝されました。

希望する方へのワクチン接種を推進

【松下】 武蔵野市では、集団接種会場3カ所とかかりつけ医による個別接種を準備し、ワクチンが届いた今年5月から接種を開始しました。当初は予約日にアクセスが集中し、大変ご迷惑をお掛けしましたが、その後改善を図り、高齢者の皆さまへの接種が軌道に乗り、次は64歳以下に接種を進めようとした矢先、国からのワクチン供給量が不足したため、接種のスピードが滞ってしまいました。それでも**65歳以上の高齢者の2回目接種率は87.6%で、都平均を3ポイント程度上回っています。全人口の2回目接種率も46.4%で都平均より5ポイント上**です（8/30現在・出典武蔵野市HP、政府CIOポータル）。今後は**吉祥寺駅前広場やエコreゾートに接種会場を開設**し、さらに接種体制を強化していきます。

【田原】 **かかりつけ医による接種**は基礎疾患のある患者さんには安心ですし、外出できない方には**訪問して接種**をしてきました。今後は自宅療養者の支援を強化するため、市と役割分担していきます。武蔵野市とこれからも緊密に連携して、市民の命と健康を守っていききたいと思います。



住み続けられるまち武蔵野へ！

Report vol. 2

2021年9月10日

〒180-0006 武蔵野市中町1-22-5
スタジオアパートメントKEN201号
tel:0422(38)8167 fax:0422(38)8168
livable.musashino@gmail.com
https://musashino-citizen.com



いのちを守り育む武蔵野を！



【松下】世界的なコロナ感染爆発はいまだその収束が見えません。今日は、武蔵野市の新型コロナウイルス感染症対策に大きな役割を果たしていただいている武蔵野市医師会の田原会長とお話をします。

【田原】武蔵野市内にはコロナ感染症指定病院として武蔵野赤十字病院がありますが、武蔵野市医師会もコロナ対応に奔走する毎日です。昨年はPCR検査の拡充、今年はワクチン接種の体制づくり、現在は自宅療養者の支援を進めています。

自宅療養者支援センター開設

【松下】今年7月から、変異株による感染拡大が続く、軽・中等症の自宅療養者の急増を大変危惧しています。武蔵野市を管轄する東京都多摩府中保健所は業務がひっ迫し、自宅療養者への対応が遅れています。武蔵野市では、都から感染者の個人情報知らされないため、独自に今年2月から**自宅療養者相談窓口**を設置し、感染者からの連絡で、食料を届け、相談に応じていました。この9月からは、**自宅療養者支援センター**を立ち上げ、支援を拡充します。

【田原】自宅療養者が急増して、10日待っても食料支援が届かないという報道がありました。武蔵野

市がさがけて行った自宅療養者支援窓口はとても良い支援だと思います。また、**自宅療養者へのバルスオキシオメーターの貸出や酸素濃縮器の導入に支援**をいただき大変感謝しています。私たち地域の医療機関は、保健所から連絡がくる前に自宅療養者に対する電話やオンライン診療・訪問診療を行っています。対応できる人数には限界があります。今後はできる限り多くの医師に協力をよびかけていきます。

【松下】今後、病床ひっ迫や医療崩壊を防ぐためには、臨時医療施設の速やかな開設が重要だと思いますが、いかがですか？

information

住み続けられるまち武蔵野へ！

公式サイトのご案内

住み続けられるまち武蔵野へ！ 公式サイトでは、松下玲子武蔵野市長の1期目の実績、武蔵野市政の次の目標、活動報告をお知らせしています。ぜひ、ご覧ください！



Twitterはこちら @livablemusasino



公式LINEアカウントはこちら



YouTube
松下玲子
チャンネルはこちら



住み続けられるまち武蔵野へ！

検索



松下玲子9つの宣言



ひとりでも安心して暮らせるまち

- ▶ 元気な高齢者の活躍プラン策定
- ▶ 急性期の病変に対する支援の充実(レスキューヘルパーなど)
- ▶ 障がい者の雇用、社会参加の機会拡大



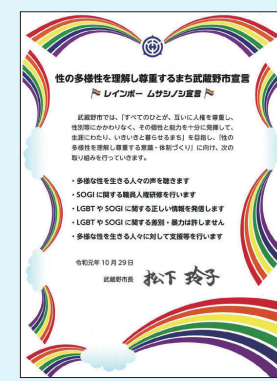
子ども子育て応援宣言のまち

- ▶ 「子どもの権利条例」を制定し、子どもの相談機関を開設
- ▶ 「0123」への4、5歳児受け入れと時間延長
- ▶ 部活動指導員や専科講師の独自加配で目の行き届く学校へ



多様性を認め合い、平和と文化を育むまち

- ▶ 武蔵野市パートナーシップ制度を条例化
- ▶ 旧赤星邸(吉祥寺本町)を活用した文化発信事業の推進
- ▶ 核兵器禁止条約に自治体として参加表明し、国に参加を強く要請する



レインボームサシノシ宣言



災害に備える安心・安全なまち

- ▶ 耐震や耐風害、耐水害の防災対策を強化
- ▶ 外環道の大深度地下工事は、安全が確保され住民の納得が得られるまで認めない
- ▶ 外環の2(地上部街路)の建設には反対



コロナ禍から命と暮らしを守るまち

新型コロナ対策の最前線が保健所です。東京23区は、人口7万人の千代田区にも単独の保健所があり、きめ細かな感染症対策や住民対応ができます。武蔵野市には保健所が無く、多摩6市合計104万人を多摩府中保健所1カ所で管轄しているため、どの市民が自宅療養をしているのかさえ武蔵野市には知らされません。これは、国や都による「行政改革」・定数削減の結果です。新型コロナから市民の大切な命を守るため、武蔵野市に保健所を復活させます。

- ▶ 自宅療養者支援センターの開設
- ▶ 臨時医療施設を開設し、医療崩壊を防ぐ
- ▶ 吉祥寺駅前広場などにワクチン接種会場設置
- ▶ 武蔵野市に保健所を復活させる
- ▶ 生活困窮者支援継続



ワクチン接種会場を見守る松下玲子



都に臨時医療施設の開設を求める松下玲子



個性かがやく魅力と活力のあるまち

- ▶ 「くらし地域応援券」第2弾で市民生活と市内産業を支える
- ▶ 市内事業者をつなぎ新たな価値を生み出す
- ▶ 農業振興・農地保全のさらなる推進



くらし地域応援券



脱原発、脱炭素、緑あふれるまち

- ▶ 「気候市民会議」を開催して、気候危機打開武蔵野プランを作成
- ▶ 緑を育み、市民憩いの居場所をさらに増やす
- ▶ 「むさしのエコreゾート」のさらなる活用



むさしのエコreゾート



健全財政を市民のために活かすまち

- ▶ 市民活動・文化の拠点に武蔵野公会堂を全面リニューアル
- ▶ スポーツ・健康増進・文化拠点として総合体育館およびその周辺施設の再編に取り組む
- ▶ 市立小学校の建て替えに合わせた自校式給食調理設備の併設



より進んだ市民参加に挑戦するまち

- ▶ 市施設にWi-Fi環境の整備
- ▶ 行政手続きのICT化による利便性の向上と情報弱者へのサポート
- ▶ 常設型住民投票制度を確立する「住民投票条例」の制定